

学校施設の耐震診断結果の公表について

平成21年1月末日現在の状況について、公表いたします。

1. 耐震診断の対象とする建物

昭和56年以前に建築された非木造の延べ床面積200㎡以上、又は2階以上の施設。

清川中学校体育館は旧耐震基準の建物であるため対象になります。

岩代小学校は、一次診断ではなく、耐力度調査を行いました。

2. 耐震診断結果

学校名	棟	構造	建築年度	面積(m ²)	一次診断	診断結果(Is値)	二次診断	診断結果(Is値)	改修等
南部小	体育館	RC	S52	1,229	H18	0.76	H21 実施予定		
高城小	校舎1-1 (教室棟)	RC	S55	1,897	H15	0.68	H16	0.89	二次診断不要
	体育館	S	S56	685	H15	0.33	H16	0.27	H21 改修
南部中	校舎1-1 (普通教室棟)	RC	S37	907	H18	0.39	H21 実施予定		
	校舎1-2 (普通教室棟)	RC	S36	793	H18	0.39	H21 実施予定		
	校舎1-3 (管理特別教室棟)	RC	S39	1,583	H18	0.25	H21 実施予定		
上南部中	校舎11 (管理教室棟)	RC	S49	2,486	H15	0.24	H21 実施予定		
	校舎12 (技術室棟)	S	S49	212	H15	0.49	H21 実施予定		
	体育館	S	S50	1,001	H15	0.27	H21 実施予定		
清川中	校舎13 (特別教室棟)	S	S53	288	H15	0.54	H22 実施予定		
	体育館	S	S57	973	H15	0.55	H21 実施予定		
南部幼	園舎1-1	RC	S43	115	H18	0.84	H21 実施予定		
	園舎1-2	RC	S36	392	H18	0.84	H21 実施予定		

RCは、鉄筋コンクリート造、Sは、鉄骨その他造

3. 耐力度調査結果

学校名	棟	構造	建築年度	面積(m ²)	一次診断	診断結果	二次診断	診断結果(Is値)	改修等
岩代小	校舎1 (家庭科・図工室棟)	RC	S41	168	H11	危険 校舎	-		H21～H22 改築
	校舎2-1 (普通教室棟)	RC	S30	537	H11	危険 校舎	-		H21～H22 改築
	校舎2-2 (管理教室棟)	RC	S30	382	H11	危険 校舎	-		H21～H22 改築
	校舎2-3 (管理教室棟)	RC	S30	267	H11	危険 校舎	-		H21～H22 改築

RCは、鉄筋コンクリート造

Is値について

建物の強度、建物形状、経年劣化の要因から決まる建物の耐震性を表す指標で、この指標に応じた安全性の目安は次表のとおりです。

構造耐震指標	0.3未満	0.3以上0.6未満	0.6以上
構造体力上主要な部分の地震に対する安全性	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある	地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い

なお、法律上の耐震改修の扱いについては、耐震改修促進法で定められており、Is値0.6以上であれば統計的に被害が少ないという結果が出ています。

しかし、学校の場合は公共施設としての重要性から、文部科学省がIs値0.7以上の建物を補強の必要がないものとしています。

1次（簡易）診断は、補強の要否の判定を行う精密診断（第2次診断以上）を行うかどうか検討するためのもので、RC構造の目標値はIs値0.9、S構造の目標値はIs値0.7です。1次診断で数値を下回っている建物については、要補強の判定の行うことができる精密診断（第2次診断以上）が必要であるため、未実施の棟については、来年度（平成21年度）から実施する予定です。

耐力度調査について

老朽化した建物に対して、建物の構造耐力、経年による耐力低下、立地条件による影響、の3点の項目を総合的に調査し、建物の老朽化を総合的に評価するものです。

耐力度調査は、点数により建物の危険な状態の度合いを示し、4,500点未満は文部科学省の改築の要件となっています。

岩代小学校は、棟別に、校舎1=4,462点、校舎2-1=4,419点、校舎2-2及び2-3=3,912点で、いずれも4,500点を下回っているため、平成21年度から改築を行います。